

武生東小学校 積志小学校 交歓会



第4回 風船がつないだ交流

今回紹介するのは、約200kmも離れた2つの小学校の、それは奇跡的・感動的な交流です。この交流は、55年前、武生東小から飛ばした手紙付きの風船を積志小の児童が拾ったことがきっかけだといえます。現在も続く両校の交流について、各校の先生に伺いました。

積志小(浜松市)&武生東小(越前市)

ご当地 日本全国小学校 行事紹介



55年前に風船を拾った袴田さん 当時小学4年生



その日、ぼくは麦まきを手伝っていました。午後3時ころ、北の空から風船が飛んできて、近くの木の枝に引っかかったので取りに行きました。その風船には手紙がついていました。手紙には、『この風船を拾った人は近くの小学校に届けてください。』と書かれていました。ぼくはその手紙を学校に持っていき、校長先生に話をして渡しました。

交流のきっかけは？

昭和36年、武生東小学校の3年生が、国語の授業で『三年生の子ども』(自分と同じ三年生の子どもが日本中に何人いるでしょうか。みんな仲よしで、友だちになりたいなという詩)を学習した際、『日本中に友だちを増やしたい!』との思いをもち、担任であった上嶋先生と話し合いました。そこで、ダメで元々と、風船に手紙を糸でしばって飛ばしてみることにしました。『どこでもいいから遠くへ飛んで行ってほしい』『誰でもいいから気づいてほしい』と迷いのない素直な思いだったそうです。11月23日、午前11時に8組(16個)飛ばした風船は、その1組(2個)が午後2時40分に浜松市積志小学校学区の畑の片隅に飛んでいき、小学校4年生の袴田秀明さんに拾われました。

- 【積志小の児童が訪ねる越前の施設】
- ▼ 恐竜博物館 ▼ 越前竹人形の里・菊人形 など
- 【武生東小の児童が訪ねる浜松の施設】
- ▼ 科学館 ▼ 楽器博物館 ▼ 浜松城 ▼ まつり会館 など



交流の内容は？

近年は、毎年、5年生が代表して交流をしています。6月に武生東小の児童が積志小に、10月に積志小の児童が武生東小に学校訪問しています。少し前まで日帰りで行っていましたが、数年前から一泊二日となり、初日は宿泊や理社の校外学習を兼ねて様々な施設を訪ね、二日目に交歓会を行うようになっていきます。

訪問した5年生は、お互いの学校の児童

静岡県の学校から、風船を拾ったという連絡を受けたとき、子どもたちはもちろん、先生や保護者の方々は涙を流して喜んだと聞いています。それ以来文通が始まり、翌年の8月には武生東小学4年生以上の児童の代表が積志小に招待、その翌年には、積志小の児童が武生東小を訪ねました。その後、毎年児童たちが交歓会をしています。



が書いた色紙や手紙を届け、持ち帰っていただきます。こうして年に2回、全児童がやりとりをしています。



祝第54回



交歓会では、どのように交流をしていますか？

両校を代表して訪問し合う5年生が中心に交流をしますが、交流会の運営や企画は、前年の交流を経験して内容をよく知っている6年生が中心となって行っています。まず学校に到着したら対面式を行い、校庭で風船を飛ばします。その後、体育館で行う交歓会では、全校児童でのおもてなしの時間として、校歌や各学年の出し物・クイズなどを行います。この交歓会後に、5年生同士での交流が始まります。

交流が50年以上も継続している理由や、成果は？

交流が続いている理由の一つに、地域や保護者の多大なご協力をいただいていることが挙げられます。両校のPTAでは「風船会」という団体がつくられており、この取り組みを支援してくれています。両校で行われる交歓会には、それぞれの保護者代表も参加しています。6月には武生東小の保護者代表が、10月には積志小の保護者代表が交歓会の当日それぞれ学校を早朝出発して交歓会に参加しています。

成果としては、当時の児童の「風船を飛ばして遠くの人と友だちになりたい！」という雲をつかむようなアイデアが実際に実現しているということ、また、そんな縁が継続して今も交流が続いていることを子どもたちに伝えられているという事実が一つ大きな成果だと思っています。なんと、この交流の取り組みから結婚したカップルもいらっしやいます。

それから200kmの距離が離れていても、決して遠くない友だちがいる。ことを子どもたちが認識し、遠い地を思いやることのできることも大変よいことだと思います。そして、お互いが郷土の歴史や伝統・文化・自然などに誇りをもち、地域を大切にしていることを実感し合える交流を推進できていることが素晴らしいと思っています。

作文

積志小学校を訪問して（児童の感想文）

積志小学校の友だちが見えてきました。いよいよ積志小学校の友だちに会える時が来ました。ぼくは、文通相手の友だちといっしょにご飯を食べました。最初は、きんちょうしていたけれど文通相手の友だちが話してくれたので、きんちょうがほぐれました。文通相手の友だちの好きな食べ物とか、好きな動物とかが分かりました。みんなちゃんと聞いてくれたので、話が進んでご飯を食べるのがおそくなりました。

でも、楽しい時間は、あっという間に過ぎていきました。ぼくは、浜松のことや積志小学校のことがもっと知りたかったです。でも、次は、ぼくたちが越前市のことを教える番です。だから、積志の子が教えてくれたことよりも楽しく、越前市のことを教えてあげたいです。

